

ラ フォレ セ ラ ヴィ —森こそ命—



La Forêt, C'est la Vie!



いつもは質素なタカバングウ村のお正月も、今年はイスラムのお祭り「犠牲祭」と重なったため、例年になく盛大に祝われました。子供たちはおめかしをして家々を廻り、お菓子をねだります。

2月3日は節分でしたが、皆さんは豆をまかれたでしょうか。ご存知のとおり、節分の豆まきは災厄を除き、福を呼び込む伝統行事です。大晦日の除夜の鐘は聞いているうちに身の引き締まる思いがし、「迎える年を良い年にするぞ」という覚悟が促されますが、節分は楽しく素直な気分で福の神の来訪をお迎えできる気がします。

緑のサヘルも無事に年を越すことが出来、新体制になってから2回目の新年となりました。日本で年末年始を過ごしたスタッフも居れば、チャドとブルキナファソの現地で過ごしたスタッフもいます。私も、久しぶりにチャドの現地で新年を迎えましたが、除夜の鐘がなく暑い年越しというのもそれなりに味があります。

チャドでは2004年からスーダン難民支援事業を継続していましたが、その完了が12月末日だったため、滞在中は終始事務所の整理や掃除に追われていました。そのため、あまり年末年始という雰囲気はなかったのですが、それでも年末の大掃除と思えば気分が出ないこともありませんでした。ブルキナファソのスタッフは、年末年始を現場の村で過ごしました。この時期、日中は気温が30度前後ありますが、朝晩の気温は低く肌寒くすら感じられます。村落の家々は暑さをしのぎ、涼しく生活できることを目的に建てられているため、11月から2月にかけては毛布や長袖が必要になり、時にはコタツが恋しくなってしまう。ある意味、これも正月気分と言えるのかもしれませんが。

それぞれの場所で年始を迎えるにあたって思いを新たにし、日本ではさらに節分に際して「緑のサヘル」と、それを取り囲む全ての人々に幸多かれと思いを膨らませました。どうぞ本年も宜しくお願い致します。

(緑のサヘル代表理事 岡本敏樹)

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）委託 ーアベシエ地域環境保全事業の完了についてー

2004年6月からアベシエ地域で行ってきた UNHCR パートナー事業は、2006年12月末日をもって完了しました。当初は事業契約の終了後も、難民キャンプ地およびその周辺村落での活動の継続を目指していましたが、対象地域の治安状況に改善の兆しが見えず、依然として最小限の現場活動を強いられていること、既に一定の成果が上がっていることを考慮し、しばらくの間は状況を静観し、他地域のローカル団体支援に重点を置くこととしました。



難民キャンプ地の外に設置された防風林。苗木を保護するため、1本1本をレンガで囲っている。

この事業を通じて、難民キャンプ地内には本当の意味での環境問題はなく、むしろ薪炭材不足からくる生活危機が問題であり、環境対策活動は周辺村落に対してこそ力を注ぐべきだと思われました。このことは、育苗所で生産された苗木の70%近くが周辺村落からの要望に対して配布されたということからも明らかであると思います。



難民家庭に設置された粘土製の改良カマド。現地普及員たちの粘り強い普及活動によって、多くの世帯が改良カマドを受け入れた。

改良カマドの普及については、粘土製改良カマドは2ヶ所のキャンプ地において、それぞれ70~80%の設置を達成しました。金属製改良カマドもまた、2ヶ所のキャンプ地において、全世帯に配布できるだけの個数を作製し、既に配布が始まっています。

この UNHCR パートナー事業は、「緑のサヘル」にとっては初めての難民キャンプにおける支援活動であり、これまで一つの地域の環境や生活の向上を目指し、単独で長い年月をかけて取り組んで来た「緑のサヘル」には、いろいろと学ぶところの多い事業でした。この貴重な経験を今後に関し、より効果的な活動を展開して行きたいと考えています。

2004-2006の活動概要

活動	2004年	2005年	2006年	計
苗木生産	—	47,804本	54,392本	102,196本
改良カマド設置	—	1,792個	9,234個	11,026個
家畜死骸処理	3,351頭	1,969頭	—	5,320頭



(担当；岡本 敏樹)

ローカル団体支援事業 (2006年11月～2007年1月)

雨季が明け、朝夕に肌寒さを感じるようになって来ました。村々では鳥追いと平行して穀物の収穫と脱穀作業が行われています。今年の雨季は雨量も降り方も良好で、まずは平年並みの収穫量が期待されています。アベシエ地域における環境活動は小休止という形になりましたが、他地域におけるローカル団体支援に関しては、これまで以上に力を入れていく予定です。

● 緑のサヘル・チャド (AGS-Tchad)

チャドで立ち上げた「緑のサヘル」のローカル団体、「緑のサヘル・チャド」に対する支援は、2年目を迎えました。チャド湖に面したカラル地域には、苗木の生産と植栽に対して意欲的な2つの住民組織があり、「緑のサヘル・チャド」はそれぞれの住民組織に対して育苗所建設と農具の支援を決定し、その実施に向けて「緑のサヘル」が協力しました。チャドの政情が不安定となった時期と重なったため、現地での実施は困難を伴い、当初の予定より大幅に遅れてしまいましたが、8月には育苗所も完成し、全ての資機材を住民組織へ



緑のサヘル・チャドによる住民組織への苗木供与。

提供することが出来ました。今年から育苗が開始される予定になっており、今後の住民の取り組みに注目していきたいと思います。*この事業は(社)国土緑化推進機構による「緑の募金」の助成を得て実施されました。

● チャド緑化青年組合 (Groupement de Jeune pour un Tchad Vert)

「緑のサヘル」のバイリ地域環境保全事業において育苗技術者・普及員として活躍した旧スタッフの一人が、首都ジャメナで有志と共に組合を組織し、育苗所を建設しました。しかし、育苗所を囲っている日干しレンガの囲いの一部が降雨により崩れ、家畜の侵入が容易になってしまったことから、苗木が食害を受けるようになりました。「チャド緑化青年組合」は日干しレンガの代わりに金網で育苗所の周囲を囲うことを計画し、「緑のサヘル」に対して支援を求めました。「緑のサヘル」では、組合の活動が既に7年に及び、苗木の生産と地域への配布、植栽指導に実績を持っていることを評価して支援を決定、2007年1月に金網設置資金の供与を行いました。



チャド緑化青年組合の育苗所。昨年は約5,000本を育苗。



(担当；水真 洋子)

タカバングウ地域生活保全事業/技術移転事業

(2006年11月～2007年1月)

今季はブルキナファソ南部が降雨に恵まれたのに対し、北部では9月以降は大きな降雨もなく、全体としては雨不足となりました。結局今年も、南部は豊作なのに北部は不作という対照的な作柄となつてしまいました。例年出稼ぎに生活費の多くを頼らざるを得ないタカバングウ村民ですが、今年も首都や近隣国への出稼ぎが始まり、活動に関する話し合いも欠席せざるを得ない村人が出て来ました。

<荒廃地回復：男性グループ>

土に凹凸を付けて雨水の浸透を促したり、穴を掘って中に有機分を入れることによって、荒廃地での作物収量を増やす試みをしています。今季は降雨不足の影響で、各区とも結果が思わしくありませんでしたが、2007年1月にこうした技術の先進地域から専門家を招き、雨水を効率的に受け止める石堰の作り方を学びました。



専門家の指導の下、石堰を作るグループのメンバー達。

<畜耕：男性グループ>

現地では、まだ農耕に家畜を利用する習慣がありません。効率的に耕作が出来るよう、牛やロバに犁を引かせる試みを進めています。2006年12月、土壌や穀物別の収穫量の計測を行ないましたが、区によっては、雨不足に加えてネズミやシロアリ、鳥などによる食害もあり、単位収量は前年を下回ってしまいました。

<石鹼作り：女性グループ>

2006年の11月と12月に100個ずつ、計200個の作製を行いました。売れ行きも順調でしたが、穀物の収穫期には村人のほとんどが畑に出払ったため、一時売れ行きが落ち込んでしまいました。近隣村にも石鹼を作っているグループがあり、市場は限られています。いかに売り上げを維持していくかが課題です。

<裁縫：女性グループ>

2006年12月と2007年1月に近隣村から講師を招き、ミシンを使った裁縫研修を行いました。12月の研修では11日間に女性や子供向けの服を20タイプ、1月の研修では20日間で4タイプ21着の女性服を作りました。メンバーには大きな自信となったようで、今後は男性向けの服にもチャレンジしたいとのことでした。



楽しい雰囲気ながらも、研修に臨む表情は真剣そのもの。



★ 第35回帰国報告会

チャド共和国におけるスーダン難民支援 (07年1月24日: 於東京)

2007年1月24日(水)、渋谷の環境パートナーシップオフィスにおいて第35回帰国報告会が行われました。2005年10月から14ヶ月に亘り、チャド共和国東部のアベシエで現地コーディネーターとして勤務した小田桐真子が、2006年の活動の成果と不安定なチャドの治安情勢の現状を報告しました。2004年に活動を開始して以来、治安の悪化が最も著しい時期における貴重な体験談などが紹介されました。報告会には、援助関係者、会社員、学生といった幅広い層から30人以上のお客様が来場し、また緑のサヘルとしても興味深い質疑応答が活発に行われ、盛況成功裏に報告会を終えることができました。



西アフリカ・スーダン難民支援 (07年1月28日: 於青森)

今回は、1月28日(土)に報告者小田桐の地元である青森県青森市でも報告会を行いました。青森県国際交流協会のご協力を得て、国際交流ラウンジで行ったこの報告会では、参加者の方々も普段はなかなか聞くことのできないチャドでの体験談に、興味深く耳を傾けていました。



<写真は報告会の様子。右上は東京、左は青森の会場にて開催されたもの>

* 報告内容の要約は次ページを参照下さい。なお、ご希望の方には当日使用した資料を、郵便あるいはEメールにて送付いたしますので、緑のサヘル東京事務局までご連絡ください。

★ スタッフ紹介



これからもよろしく
お願いいたします。

新たなプロジェクトの開始に伴い、一昨年2005年4月から8月までアベシエ地域の活動に従事した竹越久美子が、2007年月より再び緑のサヘルスタッフとして加わりました。一方で、アベシエ地域事業に携わっていた小田桐が、2007年1月末日を以って緑のサヘルを離れることになりました。豊富なアフリカ経験を活かし、今後も多方面で活躍されることを期待します。参加する者、旅立つ者、それぞれ思いをもって決意しています。ご声援をよろしくお願ひします。



小田桐さん、本当
にお疲れ様でした!



2005年の9月より、緑のサヘルに関わらせていただき、とてもいい勉強になりました。今後はボランティアとして個人的にお手伝いしていきたいと思ひます。東京事務局の皆様、支援者の皆様、本当にありがとうございました。(小田桐)



緑のサヘルは UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) のパートナー NGO として、アベシエ東部地域での環境面での難民支援活動、すなわち苗木生産・植林および改良カマドの普及を行ってきました。2004 年に活動を開始してから 3 年間、植林に対しても改良カマドの作製に関しても、難民の大量流入により生活環境が圧迫された地域住民のほうが、環境保全に対する意識は高く、活動にも積極的でした。しかし、2006 年は自主的に植林し維持管理する難民も増え、難民の意識も変化してきたことがうかがえました。一方で、援助団体間での普及方法や方針の違いが難民を戸惑わせてしまうこともあり、1 つのキャンプで国籍の違う複数の団体が活動する難しさを感じることもありました。

また 2006 年は、アベシエ市の小学校 5 校で JICA の委託事業である環境教育プロジェクトも実施しました。教師と保護者を対象に講習会を行い、環境意識を高めた上で植林を実施し、植樹後の管理は教師、生徒、保護者が一体となって行うことになっています。

しかし、このような活動も治安が悪化すると続行不可能になります。非常事態宣言で夜間外出禁止、検問規制など戒厳令が出されている中、アベシエ市が一時的に反政府軍に占拠され、現場出張の見合わせや、キャンプ周辺現場の現地スタッフの退避、さらには全援助関係者が仏軍基地に避難する事態に発展しました。初めて危険地域で活動を行った当団体にとって、緊急事態への対応の不備が課題として残る機会ともなりました。

~~~~~

？ 皆さんからの質問にお答えします！ ？

Q. どのような場所に植林をするのですか？ 砂漠に植林しても、枯れてしまうのではないのでしょうか…。

A. 雨季にできる河川(ワジ)沿いに植林をする、という手法を採用しました。緑のサヘルでは元来、在来種(アカシア類や豆科のプロゾフィス等)を中心に、現地に適した果樹(マンゴー、柑橘類、グアバ等)を選んで植林しています。キャンプがある地域の年間降水量は 400mm~450mm なので、これらの樹種はだいたい生育可能です(実は 500mm 以下の気候下にキャンプを作るのは不適切です)。難民・地域住民にあっては果樹への要望が高いです。果樹栽培や日陰・薪炭材の確保が理由でのキャンプ内での植林活動はもちろん、防風林や植生保護区を設けて植林していますが、やはり灌水は必要です。

Q. 貯水はどのように行っていますか？

A. 素焼きの土器で水場から汲んできます。アベシエには大きなワジができるので、ワジ沿いに井戸を掘ります。水の質は悪くはないのですが、季節によっては出が悪いです。家畜にも与えます。ロバに運搬用のカメをつけて運びます。一般に女性の仕事です。(写真右)



Q. 難民への支援、ということに関しては、どのような援助が必要になってくるのですか？

A. まずは生命活動において最も基本的な「衣食住」の保障が重視されます。水、食糧、医療、教育など様々です。よく知られたところでは WFP (世界食糧計画)、ユニセフなどです。前者は外国から運ばれてきた食糧の確保と管理、キャンプまでの輸送を行います。各家庭・個人への配布は他団体に委任しています。後者は文房具を始めとする学習道具を難民に提供しています。他、難民キャンプの周辺村落の水利環境を整えたり、家畜のワクチン接種を行う団体などが参加しています。

Q. 難民たちは家畜も連れて移動してくるのですか？

A. 家財道具は置き去りにしても、財産の一部である家畜を「持参」します。国境もワジにて仕切られているだけなので、ロバ、ヤギ、ウシといった家畜は移動が可能です。放浪しながらキャンプにたどり着く難民の場合、途中で家畜が死んでしまうこともあるようです。

# ありがとうございました

## 【 新規会員の皆様 】

秋山 美知子

## 【 継続会員のみなさま 】

曾根田 太郎／綱島 孝／遠藤 保子／立屋敷 哲／田中 ちえ子／杉本 和／小枝 清子／援助修道会  
今野 進／今野 和子／滝沢 みさを／永田 ひろ子／西村 歩／小池 昌子／加藤 和雄／増田 浩二／宮田 春夫  
松本 仁一／鎌田 信男／株式会社 ホーム創建／太田 弘子／村本 晶子／榎本 雅子／佐藤 由規／金 明希  
菅沼 浩敏／上野 幸子／青山 初穂／和田 隆資／國岡 裕子／鈴木 幸子／矢野 友一郎／井上 幸子／郷 保治

## 【 ご寄付を頂きました。ありがとうございました。 】

江川 譲二／大郷 貴夫／石川 麻衣／石黒 勇平／大原 緑／小林 伸張／田中 ちえ子／須藤 きい  
榎本 みつ枝／小枝 清子／中村 信・陽子／真砂 友子／村上 和代／滝沢 みさを／日本聖公会大阪教区婦人会  
宮本 秀子／丹 邦子／田中 薫／西村 豊子／山田 静子／西村 歩／増田 浩二／高松 千枝子  
曾我 節子／松岡 亜湖／倉沢 昌子／宮田 春夫／山本 明子／宮本 政子／中村 美和子／大津友の会  
小千谷国際交流協議会／太田 弘子／西宮聖ペテロ教会／永井 覚子／萩原 たか子／大阪信愛女学院中学校  
株式会社 INAX (105名)／門脇 恵美子／本多 れい子／渡邊 かをる／金 明希／小川 あい子／青山 初穂  
小島 訓子／佐藤 京子／永井 直子／天野 洋子／米澤 成子／塚本 章介／井上 幸子 他匿名 20名

## 【 助成団体からの助成金 】

日本経団連自然保護基金 / 財団法人 地球市民財団

(敬称略、入金順)

上記は2006年11月1日から2007年1月31日までにご支援頂いた方のご芳名であり、2007年2月1日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせていただきます。また、ご芳名の掲載につきましては、お名前の公開を承諾された方のみを掲載させていただきます。あらかじめご了承ください。

## ● お話させて頂きました。

- 11月 7日 立正大学 (熊谷キャンパスにて)
- 11月 17日 千葉県船橋市立 葛飾中学校 (緑のサヘル 事務所にて)
- 11月 27日 共栄学園短期大学
- 12月 15日 埼玉県戸田市立 芦原中学校 (緑のサヘル 事務所にて)
- 1月 12日 早稲田大学 (西早稲田キャンパスにて)
- 1月 30日 神奈川県座間市立 座間東中学校 (緑のサヘル 事務所にて)

♪ 事務所訪問や講師派遣のご依頼は東京事務局までお気軽にお問い合わせください ♪

# おしらせ

## 書き損じ葉書で国際協力しませんか？

書き損じ葉書、使わなかった古い年賀状などを大募集しております。1枚でもかまいません。どうぞ緑のサヘルにご寄付下さい。いただいた葉書は、新品や切手と交換もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

## 2007年 緑のサヘル オリジナルカレンダー



2007年オリジナルカレンダーには、まだ在庫がございます。今年もまだ始まったばかり、ご自宅用やご贈答品用にいかがでしょうか？ 1冊で30本の苗木を植えることが出来ます。どうかご購入にご協力をお願いいたします。

### 【目次】

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1・・・表紙           | 5・・・国内活動告   |
| 2・・・UNHCR 委託事業報告 | 6・・・帰国報告会要約 |
| 3・・・チャド活動報告      | 7・・・ありがとう   |
| 4・・・ブルキナファソ活動報告  | 8・・・お知らせ    |

### <編集後記>

- 今年の冬は世界的に見ても暖冬とのことですが、気温差20度強はさすがに骨身に凍みます。満員の通勤電車の熱気が、ほんの少しありがたいと感じる毎日です。(岡本)
- 共に汗を流したスタッフの新たな旅立ち。応援しつつもやはり少々淋しいものです。もう何人を見送ったことでしょうか？ 苦しい状況にも関わらず頑張ってくれた全ての仲間に「感謝」です。(菅川)
- 山野の方から花粉がそろそろ飛び始めてきたようです。10年来のお付き合い、マスクの価格が気になります。毎年この時期、日増しに春めく陽気と暖かい風が、ちょっとにくいです。(佐藤)

お詫言・ご挨拶にどうぞ

## ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】 郵便振替用紙にご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

|   |                | 関東 信越<br>北陸 中部<br>南東北 | 関西 北<br>東北 | 中国    | 四国    | 北海道<br>九州 | 沖縄    |
|---|----------------|-----------------------|------------|-------|-------|-----------|-------|
| A | アイス10個         | 3,800                 | 3,900      | 4,010 | 4,110 | 4,210     | 4,420 |
| B | アイス20個         | 6,400                 | 6,500      | 6,610 | 6,710 | 6,810     | 7,020 |
| C | チーズ            | 3,800                 | 3,800      | 3,800 | 3,800 | 3,800     | 3,800 |
| D | アイス /<br>ケーキ2種 | 3,800                 | 3,900      | 4,010 | 4,110 | 4,210     | 4,420 |
| E | ムース            | 4,930                 | 5,030      | 5,140 | 5,240 | 5,340     | 5,550 |
| F | ケーキ            | 4,930                 | 5,030      | 5,140 | 5,240 | 5,340     | 5,550 |
| G | カレー /<br>チーズ   | 5,000                 | 5,100      | 5,210 | 5,310 | 5,410     | 5,620 |
| H | ケーキ2種          | 3,230                 | 3,330      | 3,440 | 3,540 | 3,640     | 3,850 |
| I | カレー            | 3,580                 | 3,680      | 3,790 | 3,890 | 3,990     | 4,200 |
| J | チーズ /<br>ソーセージ | 5,730                 | 5,830      | 5,940 | 6,040 | 6,140     | 6,350 |

内容の詳細は同封のチラシをご覧ください。

\* チラシの価格には送料が含まれていません。送料込みの価格は、上記の表をご参考にしてください。

## La Forêt, C'est la Vie ! Vol. 29

編集 菅川拓也 佐藤裕美 岡本敏樹 竹越久美子 / 発行 菅川拓也 / 発行所 緑のサヘル / 印刷 社会福祉法人 東京コロニー

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041

HomePage : <http://www.jca.apc.org/~sahel/> E-mail : [sahel@jca.apc.org](mailto:sahel@jca.apc.org)